

原稿の書き方

1. **原稿** 原稿は A4 判用紙を使用する。和文原稿は、上下左右に 30 mm の余白、横書き 35 字×25 行。明朝体系のフォントを用いサイズは 12 ポイントとする。英文原稿では、Times New Roman, 12 ポイント等の標準的なフォントを用い、上下左右に 30 mm の余白を残して 1 頁 25 行を基本とする。原稿の下部にページ番号、左に通し行番号を付ける。
2. **表題, 要旨** 原著論文および総説論文の原稿は、表題、著者名、要旨、所属、住所、キーワード(3~6 語程度)を和文英文の両方で用意する。ランニングタイトルは、和文原稿の場合には和文で 30 字以内、英文原稿の場合には語間空白を含めて 60 字以内で準備する。要旨は和文 400 字以内、英文 300 語以内とし、互いに整合していなければならない。また、連絡先電子メールアドレスを付記する。なお、和文原稿の場合には、英文要旨を投稿時に準備する必要は無く、原稿受理の際に提出すればよい。原著論文および総説論文以外の原稿は、和文の表題、著者名、所属に加え、英文の表題を付すだけでよい。
3. **本文** 本文は、「はじめに」「材料と方法」「結果」「考察」「謝辞」「引用文献」などの項目を用いて記述するのが望ましい。最初の 1 マスはあけずに書き始め、段落のかわるところは 1 マスあける。句読点は、「, .」を使用する。数字とアルファベットは半角、片仮名は全角文字とする。数式には両括弧で通し番号を付ける。本文中で文献を引用する場合には、Reeve (1970), Griffith and Linden (1981a, 1981b), あるいは (Reeve, 1970), (山田・田中, 1975), (Bailey et al., 1996; 山田ほか, 2001) とする。文献を連記する場合には、まず年代順、次に著者名のアルファベット順とする。英文原稿を投稿する際には、事前に英語を母国語とする者による英文校閲を受ける。
4. **引用文献リスト** 見出しは「引用文献」とし、著者名のアルファベット順に列記する。筆頭著者が同じ場合、第 2 著者名のアルファベット順で並べる。それも同じ場合には、より下位の著者名のアルファベット順で並べる。全て著者名が同じ場合には、発行年月の古いものを上位に配置する。和文と英文の文献は区別せず、英語表記した場合のアルファベット順で並べる。本文中で引用した文献は必ず引用文献に載せ、また、引用文献に無い文献は本文中で用いない。なお、漢字の人名で姓または名が 1 文字である場合には姓と名の間にスペースを入れる。

雑誌(例)

Yatsu, A., T. Watanabe, M. Ishida, H. Sugisaki and L. D. Jacobson (2005) Environmental effects on recruitment and productivity of Japanese sardine *Sardinops melanostictus* and chub mackerel *Scomber japonicus* with recommendations for management. *Fish. Oceanogr.*, **14**, 263–278.

和久光靖・金子健司・鈴木輝明・高倍昭洋 (2012) 沿岸域におけるデッドゾーンの分布. *水産海洋研究*, **76**, 187–196.

Takeshige, A., Y. Miyake, H. Nakata, T. Kitagawa and S. Kimura (2013) Effect of wind stress on the catch of Japanese anchovy *Engraulis japonicus* off northwestern Kyushu, Japan. *Fish. Sci.*, doi: 10.1007/s12562-013-0672-z.

単行本(例)

Gunn, J. and B. A. Block (2001) Advances in acoustic, archival and satellite tagging of tunas. In: *Tuna: Physiology, ecology, and evolution*, ed. B. A. Block & E.D. Stevens, Academic Press, San Diego, CA., pp. 167–224.

鈴木啓太・田中 克 (2008) 有明海筑後川河口域におけるスズキの初期回遊生態. 「安定同位体スコープで覗く海洋生物の生態 アサリからクジラまで」 富永 修, 高井則之編, 恒星社厚生閣, 東京, 124–136.

宇野木早苗 (1993) 「沿岸の海洋物理学」. 東海大学出版会, 秦野, 672 pp.

Mann, K. H. and J. R. N. Lazier (1991) Dynamics of marine ecosystems: Biological-physical interactions in the oceans. Blackwell, Cambridge, 432 pp.

報告書(巻号のないものの例)

田 永軍・阪地英男 (2013) 平成 24 年度ブリの資源評価. 平成 24 年度我が国周辺水域の漁業資源評価 第 2 分冊, 水産庁・水産総合研究センター, 1036–1066.

講演要旨集(例)

山根広大・長倉義智・野田 勉・藤浪祐一郎・青野英明・渡邊良朗 (2012) 震災後の宮古湾におけるニシン稚魚の育成. 平成 24 年度日本水産学会春季大会講演要旨集, 53.

5. **図表** 図および表は本文とは別葉とし, A4 判 1 枚に 1 図(あるいは 1 表)を作成する. 図および表の説明文は原著論文および総説論文では英文で, 他では和文とする. 図の説明は全部をまとめて別葉とし, 表の説明は表の上部に記述する. 図の原稿は, 用紙の隅に著者名と図番号を記入する. 原著論文および総説論文では, 図および表は和文・英文ともに, 本文中では (Fig. 2), (Table 3) のように, 説明文では Figure 2, Table 3 と表す. それ以外の原稿では, 図 1, 表 2 と表す. 図は, カラー印刷を希望する場合以外は黒色で鮮明に作成する. 刷り上がりの図の印刷幅は 7–8 cm, または 14–15 cm となるので, 明瞭に印刷されるようレイアウトや文字の大きさに十分に配慮する. 図中の記号を図説明文中に入れることはなるべく避ける. 表は, 1 印刷面に収まるように組む. 特別な場合も見開きページ内に収まるようにし, 折り込みページとしないようにする.
6. **単位および記号** 単位の記載においては SI 単位を尊重し, 単位記号はローマンを原則とする. また, 変数, パラメータ, 統計量はイタリックとする. 速度等の表示は指数を用い, cm/s の形式は用いない. 数値と単位の間にはスペースを入れる. また, 単位は半角で入れる. ただし, %, ‰, °C, °, ′, ″ の場合には数値との間のスペースは不要である. 塩分には単位は付さない. なお, 英文中には波ダッシュ(〜)は用いない.

[例]長さ・面積・容積: nm (μm は不可), μm (μ は不可), mm, cm, m, km, mm², cm², m², mm³, cm³, m³
質量: μg, mg, g, kg, t

時間: s, min, h, d, month, yr あるいは秒, 分, 時間, 日, ヶ月, 年

速度: cm・s⁻¹, m・s⁻¹, kt(ノット)

7. **生物名** 和文原稿中では標準和名はカタカナで書き, 一般的な名前ではできるだけひらがなで書く. 標準和名が最初に出たところで学名をイタリックで続ける. 学名には分類学上の混乱が生じない限り命名者を付けない. 標準和名, 標準英名ともに科学的な分野で国際的に広く受け入れられている名称を用いる.

[例]マイワシ, マアジ, マサバ

いわし類, あじ・さば漁業

8. **地名, 海域名, 海流名** は科学的な分野で国際的に広く受け入れられている名称を用いる.
9. 他から図や表を引用する場合は, 著者(引用者)が責任をもって, 原著者および著作権所有者の了解を得ておくこととする.
10. インターネット上の公開データベース等を引用する場合は, 引用文献には記載せず, その URL を本文中の引用箇所に括弧付きで, 参照した日付とともに記載する.

(<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/db/elnino/index/soi.html>, 2017 年 4 月 20 日)